



2025

# 学校だより **本荘** Smile

令和7年度 第29号  
令和7年10月8日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

**子どもたちの「対話」を保障した授業。本荘小ではすべての先生方が取り組んでいます。**



1年生から6年生までの授業の様子を載せてみました。ここで何かお気づきのことはないでしょうか？よく見るとわかるのですが1年生から6年生の写真の中で、あることが共通しているのです。ヒントを言いますと・・・、スリーヒントでいってみます。

①私たちや現在の保護者のみなさんが子どもの頃に受けた授業では、一般的ではなかった。

②慣れるまでは違和感があると思います。子どもたちが困るようなことはありません。

③子どもたちの「対話」を保障するためにやっています。さあ、わかりましたか？

簡単なのですが、実は座席が「コの字」になっているのです。少々変形しているクラスもありますが、それは人数の関係です(笑)。でも、思い起こしてください。ご家庭の皆様が小学生だった時は、あまり一般的ではなかったと思うのですが、いかがでしょうか？私の子ども時代は、今から50年も前なので、このような座席はほとんどありませんでした。みんな「きちんと」前を向いていました。必ず全員が先生の視野に入るようにです(ー)。みんなが黒板に向かっていました。当然、無駄なおしゃべりはありません。クラスによっては、ただ黙々と先生が書いた板書を写すだけの学級もありました。

では、なぜ本荘小学校のクラスは「コの字」型なのでしょう。まず、お互いの顔が見え、表情がよくわかるということです。講義形式の授業であれば、先生が一方向的にしゃべりますし、全員が黒板を見やすくなっています。みんなが先生の方を向いて意見を言いますよね。(裏面に続きます)

しかし、一番前の人が先生に向かって、発表をしている時、後ろにいる人たちは、発表者の表情はわかりません。発表者も他の人がどんな表情で自分の意見を聞いているのかわかりません。意見がワンウェイ、一方通行になってしまいます。現在の学習指導要領では「主体的、対話的で深い学び」が目指す授業像として掲げられています。知識を暗記して終わりではなく、みんなで考えを出し合い、より深く、より広い知識や技能を習得する授業が目指されています。相手の思いや願いをくみ取りながら「自分もよく、みんなもよい」という合意形成を目指しているのです。そのためには、発表者の音声だけではなく、表情や表現方法などを見ながら話し合うことが求められます。だから、「対話」を重視する授業では「コの字」なのです。

本荘小学校では、お互いに「わかり合いながら」授業を進めていこうとしています。それは、先生方が一人一人のこどもを大切にしようとしているからです。一人一人に力をつけようとしているからなのです。一人一人が大切にされた教室で、こどもが笑顔で育つ。これからも本荘小学校はそんな学校を目指していきたいと思います。実践あるのみです(^\_-)☆ (校長)

## 校長先生の虫眼鏡 「AIで調べてみたら・・・」

この号を書き終わった後に、生成AIにも調べさせてみました。さあ、結果はいかが？

### AIの回答

コの字（U字）型の座席配置のメリットは、参加者全員が顔を合わせやすく、活発な議論やコミュニケーションがしやすい点にあります。また、抜けた一辺にホワイトボードやプロジェクターを設置できるため、プレゼンテーションや情報共有が効果的に行えます。さらに、隣り合う席が近いので、教員が席間を移動して学習状況を把握しやすい、といった利点もあります。

### 具体的なメリット

#### ① コミュニケーションの活性化

- 参加者同士の顔が向き合いやすいため、活発な意見交換や議論を促しやすいです。
- 隣同士の距離が近いので、隣の人とすぐに話したり、ペアやグループでの活動に切り替えたりするのが容易です。

#### ② 情報共有と視覚的な効果

- コの字の一辺が空いているため、ホワイトボードやプロジェクターを配置し、資料を映したり意見を書き込んだりできます。
- 参加者が同じ資料を同時に見て説明を聞けるため、情報が統一されやすいです。

#### ③ 一体感と参加意識の向上

- 全員の顔が見えることで、一体感が生まれ、参加者一人ひとりの発言を促しやすくなります。

#### ④ 教員によるフォローアップ

- 教員が内側を回ることによって、生徒の学習状況や机間支援が容易になり、全体を漏れなく把握できます。

大体こんな感じでした。同じようなことを言っています(^\_^)♪。